

9:14 さて、彼らがほかの弟子たちのところに戻ると、大勢の群衆がその弟子たちを囲んで、律法学者たちが彼らと論じ合っているのが見えた。

9:15 群衆はみな、すぐにイエスを見つけると非常に驚き、駆け寄って来てあいさつをした。

9:16 イエスは彼らに、「あなたがたは弟子たちと何を論じ合っているのですか」とお尋ねになった。

9:17 すると群衆の一人が答えた。「先生。口をきけなくする霊につかれた私の息子、あなたのもとに連れて来ました。

9:18 その霊が息子に取りつくと、ところかまわず倒します。息子は泡を吹き、歯ざしりして、からだをこわばらせます。それであなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願ひしたのですが、できませんでした。」

9:19 イエスは彼らに言われた。「ああ、不信仰な時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいなければならぬのか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならぬのか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」

9:20 そこで、人々はその子をイエスのもとに連れて来た。イエスを見ると、霊がすぐ彼に引きつけを起させたので、彼は地面に倒れ、泡を吹きながら転げ回った。

9:21 イエスは父親にお尋ねになった。「この子にこのようなことが起こるようになってから、どのくらいたちますか。」父親は答えた。「幼い時からです。」

9:22 霊は息子を殺そうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。しかし、おでき

になるなら、私たちをあわれんでお助けください。」

9:23 イエスは言われた。「できるなら、と云うのですか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」

9:24 するとすぐに、その子の父親は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

9:25 イエスは、群衆が駆け寄って来るのを見ると、汚れた霊を叱って言われた。「口をきけなくし、耳を聞こえなくする霊。わたしはおまえに命じる。この子から出て行け。二度とこの子に入らな。」

9:26 すると霊は叫び声をあげ、その子を激しく引きつけさせて出て行った。するとその子が死んだようになっただので、多くの人たちは「この子は死んでしまった」と言った。

9:27 しかし、イエスが手を取って起こされると、その子は立ち上がった。

9:28 イエスが家に入られると、弟子たちがそつと尋ねた。「私たちが霊を追い出せなかったのは、なぜですか。」

9:29 すると、イエスは言われた。「この種のもものは、祈りによらなければ、何によっても追い出すことができません。」

弟子は祈りを忘れ、律法学者は敵の失敗に乗じて議論をふっかけ、人々は野次馬となり集まっていた。そこでイエス様は「不信仰な世」と、嘆かれました。

弟子たちのように、何かマニュアル化した祈りの方法によって何かができると考えてはなりません。すべては主ご自身の力に力があり解決があり

ます。私たちも「不信仰」と自分を悔い改め「お助けください」と主により頼み、「私たちに追い出せ」るかどうかわからなく、主に祈ることです。

自分自身が抱えている問題に関しても、この出来事と重ね合わせて考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

